



○終業式講話「学ぶということ」

令和4年度もいろんなところでみなさんががんばってくれました。お褒めや感謝の言葉もたくさんもらいました。新型コロナに振り回されました日々もやっとトンネルの出口が見えてきましたが、引き続き私たちがすべきことはしっかりと行いながら、そしてお互いを気遣いながら、これまで以上に有意義で意味ある日々を送っていきましょう。そのためにも、進級にあたり、気持ちを高めて新年度、新学期を迎えられるよう、目標や計画をしっかりと立てて春休みに入ってください。



さて、卒業式の式辞でも触れた NHK の朝ドラ「舞いあがれ！」。2月上旬放送の第88話は、主人公(舞)の兄(悠人)が、株の不正取引、インサイダー取引で金儲けをしたことでマスコミなどから叩かれ実家に帰る話でした。悠人が心にまとった鎧を脱ぎ、家族とのわだかまりが氷解するラストシーンは感動的でした。そのきっかけが、父の遺した日記を読んだことでした。そこには、悠人の才能を父が認めていること、悠人の夢を父として分かりたいと思っていることがつづられていました。そして、「投資で稼いだお金を何をしたいのか、どういう生き方をしたいのかわからない。夢が何かわからない。だから父である自分は夢を捨てずに、子どもに胸が張れるように夢におかかってあきらめずにがんばらないといけない」ともつづられていました。

「お金儲けをして何が悪いのですか？」…村上ファンドを率いて経済界に旋風を巻き起こし、「物言う株主」と呼ばれた村上世彰(よあき)氏が記者会見で発した言葉です。2006年村上氏はニッポン放送株を巡るインサイダー取引の疑いで逮捕されました。記者から、「法律内であれば何をしてもよいとお考えですか？」という問いかけに対して、「金儲け、悪いことですか？みんなも一生懸命働きお金儲けをしているでしょ…ルールの中で一生懸命に株取引をして儲ける…何が悪いのですか？」と返しました。記者の誰もその場で反論できなかったことを思い出します。私も未だに明確な答えが出せていません。みなさんならどう反論しますか？

「舞いあがれ！」の第88話を観て、探していた答えのヒントを得た気がしました。村上氏の発言があった頃から、例えば地歴公民科の授業も暗記中心から変わりはじめました。『生徒会誌』でも触れましたが、1947(昭和22)年の制定以来一度も改正されることのなかった教育基本法がちょうど2006年に改正され、これにともない学校教育法も改正。学校教育において重視すべき学力の3要素が、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」と定義されました。学力は知識を身につけることだけでつく力ではありません。

五重の塔で人生を表現したとすると、土台は人間力、社会力、学力で構成されると思っています。土台の上で、心柱を支える礎石が志。その志が大きければ大きいほど太くて長い柱が建ち、立派な五重の塔になると思っています。昨今夜間中学の設置や充実が叫ばれています。土台の一つでもある学力を卵で表現すると、黄身にあたる部分が、中学校や高校までに学ぶことで身につく学力。自身の部分はそれ以後の教育や学び、経験の中で身につく学力だと思っています。学び直したいというニーズがあるのは、社会人になり、大人になり自己実現を果たそうとすればするほど黄身の部分の大切さに気づくのだと思っています。

「あの時しっかり勉強しておけばよかった」という言葉は、幅広い年齢層の人から耳にする言葉です。今みなさんは、黄身をつくる大事な時期にいます。今しかできないことをすることも大事な事ですが、今こそすべきこと、学力をつけること、それをしっかりやってください。人生をより豊かなものにするためにも、そのことを切に訴えお願いして、令和5年度最後の講話とします。